

令和5年度第1回川崎市社会教育委員会議図書館専門部会 摘録（確定版）

日時 令和5年6月14日（水）10:00～12:00
場所 中原図書館多目的室
出席者 委員 菅原委員、今野委員、渡部委員、吉田委員（副部会長）、青柳委員（部会長）、
渡邊委員、平木委員
図書館 横田・川崎図書館長、土屋・幸図書館長、小島・中原図書館長、澁谷・高津図書館長、
舟田・宮前図書館長、丸山・多摩図書館長、小嶋・麻生図書館長
事務局 中原図書館 能塚・庶務係長、浅野課長補佐・利用サービス係長、
笛木課長補佐・資料調査係長、
飯草課長補佐・図書館ネットワークシステム担当
庶務係 伊藤主任、荒井会計年度任用職員
(欠席) 小野委員、千委員、元木委員

庶務係長

- ・会議の成立 定刻になりました。令和5年度第1回川崎市社会教育委員会議図書館専門部会、開会前の進行を行います中原図書館庶務係長の能塚と申します。今年度も引き続きよろしくお願ひいたします。
まず、本日の会議の成立でございますが、7名の委員の御出席をいただきましたので、川崎市社会教育委員会議規則第6条第6項、過半数以上の出席により定数を満たし本会議は成立したことを報告させていただきます。
- ・公開（傍聴）について 本日は会議傍聴の方が3名いらっしゃっております。

それでは開会に先立ちまして、中原図書館長 小島からご挨拶を申し上げます。

小島館長 本日の協議に先立ちまして、今年度4月の異動も含めまして御紹介をさせていただきます。
横田館長 川崎図書館の横田でございます。3年目になります。引き続きよろしくお願ひいたします。
土屋館長 幸図書館の土屋でございます。今年から幸図書館勤務となります。よろしくお願ひいたします。
澁谷館長 高津図書館の澁谷です。多摩図書館からの異動になります。よろしくお願ひいたします。
舟田館長 宮前図書館の舟田でございます。今年2年目になります。どうぞよろしくお願ひいたします。
丸山館長 多摩図書館の丸山です。幸図書館から異動になりました。よろしくお願ひいたします。
小嶋館長 麻生図書館の小嶋と申します。4月に着任いたしました。前の職場は総合教育センター総務室に2年間おりました。どうぞよろしくお願ひいたします。
小島館長 併せて中原図書館の係長も異動がございましたので紹介をさせていただきます。利用サービス係長に浅野が異動となりました。昨年度は資料調査長でしたが、利用サービス係長に異動となりました。後任は笛木になります。
笛木係長 このたび4月1日異動により、資料調査係の係長となりました笛木と申します。3月まで教育委員会事務局総務部の方におりました。よろしくお願ひいたします。
小島館長 庶務係長、システム担当係長につきましては変わりません。また本日は会議録作成のために中原図書館の伊藤主任、荒井が出席しておりますので御了承ください。以降につきまして

は、部会長よろしくお願ひいたします。

部会長 只今より、令和5年度第1回川崎市社会教育委員会議図書館専門部会を開催させていただきます。本日も効率的に議事を進行し、できるだけ時間短縮をしていきたいと思ひますので、皆様、ご協力お願ひします。それでは、事務局から資料の確認等をお願ひいたします。

庶務係長 本日本配りしました資料の確認をさせていただきます。

まず本日の次第が一枚ございます。続きまして「資料1」令和4年度第4回川崎市社会教育委員会議図書館専門部会会議録(案)でございます。続きまして「資料2」基本方針Ⅰ「一人ひとりの市民が使いやすいしくみづくり」<行きたくなる図書館>、基本方針Ⅱ 多様な利用ニーズに対応した読書支援<まちに飛び出す図書館>、本日の協議等の資料となっております。続きまして「資料3」令和4年度(2022)図書館活動報告書(案)抜粋版(各種事業)、でございます。あと参考資料として、「今後の市民館・図書館のあり方」の冊子を御持参いただいているかと思ひます。また配布物といたしまして川崎市総合文化団体連絡会様から「文化かわさき」第44号を、委員の方のみに配布をさせていただきます。また、渡部委員から「いぬくら文庫だより」を配布させていただきます。川崎市立図書館から電子図書館の補足資料がございます。以上でございます。

部会長 ありがとうございます。次に議事録の確認をお願いします。

庶務係長 資料1「令和4年度第4回川崎市社会教育委員会議図書館専門部会会議録(案)」をご覧ください。ご連絡いただきました修正を反映させた議事録案をお示しいたします。修正等ございましたらこの場でお願ひいたします。全体として、ご発言の趣旨を損なわない範囲で、言い回しを多少修正させて頂いている場合がございます。網掛けの箇所をそれぞれ修正させていただきます。事務局からは以上です。

部会長 ありがとうございます。よろしければ、これで承認といたします。
(委員承認)

庶務係長 承認いただきました会議録1ページ目の(案)を消していただきまして、こちらをもって令和4年度第4回会議録確定版とさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

<報告事項>

部会長 次に次第に従いまして、報告事項に移ります。それでは事務局からお願ひします。

小島館長 それでは報告事項(1)の今後の図書館システムについて御報告をさせていただきます。現在、図書館システムの更新作業を進めております。以前ご説明いたしました今期専門部会のスケジュールにおきましても、通常ですと次の専門部会は9月ごろに行っているのですが、今回システム更新の作業が9月にあります関係で10月以降にさせていただきます。後程、次回スケジュールを御相談させていただきますが、9月にシステム更新のため一部休館を含めて、サービスを一時期停止することになります。現在日程調整を進めておりますが、今後館内や、図書館ホームページ等で詳細を発表してまいります。新システムにつきま

しては、先日新聞でも報道されましたが、キャッシュレスの普及などから財布をお持ちにならない方が増えてまいりました。図書館カードは財布に入れられることが多く、今後、携帯されない方が増えることが想定されますので、新システムでは、Suica やPASMO といった交通系 IC カードや、スマホ自体も図書館カードとして利用できるように考えております。新たなカードの利用を可能にするため、先日の教育委員会で図書館規則の改正をいたしました。現在の ICT 革新を取り入れて、利用者の皆様にとってより利用しやすい図書館システムにしていきたいと思います。9 月中は御不便をおかけしますが、10 月からの新しいシステムで、より良くなった図書館サービスを体験していただければと考えております。休館期間などを調整する必要がございますので、現時点では詳細をお伝えできないのですが、10 月に次回専門部会を開催したいと思っておりますので、そのときには新たなサービスの詳細をお伝えさせていただきます。報告事項(1)は以上でございます。

部会長

ありがとうございます。ただいま市立図書館のシステム更新について報告いただきましたが、委員の方には御質問等あるでしょうか。

(特になし)

小島館長

それでは報告事項(2)「かわさき電子図書館」の状況につきまして御報告させていただきます。テレビ画面を御覧ください。

利用サービス係長

今日は「かわさき電子図書館」のホームページを出しております。今日は管理者用の特別な ID でログインしております。ログインするためには川崎市立図書館の貸出カードが必要になります。緑色の市外カードの方は御利用いただけません。ご自身の番号をログインの際に使います。パスワードは、初期設定だけ御自身の生年月日になります。生年月日を入れてログインすると今出ている画面になります。画面構成ですが、まずご利用ガイドがあります。それをクリックすると、中に色々な利用内容が書いてあります。これを御覧いただきながら見ていくことも可能です。それではトップに戻ります。トップ画面を下の方に見ていきますと特集を組んでいるものがあります。今回は「動く絵本」「音が出る絵本」です。最初に一部出ていますが、「もっと見る」を押すと下にいっぱい出てきます。今回は縦になっていますので、サムネール表示で。「100件」とすると、非常にたくさん出てくるようになります。そこを見ていただくと『どうぞのいす』がある。これを読みたい、借りたいと思ったとき、普通図書館で借りるときはその本を持って行って借りますよね。でも、この電子図書館の中では、今借りている人が多数いますので「予約する」というボタンを押すようになります。そうするとその資料の予約が完了となります。そして『どうぞのいす』がどんな本かと開いてみると内容が出て来て、大橋さんという人の声で読んでいる。今予約は100人目なのですがこの本ライセンス数を3つ持っていますので、もう少し早めに提供できると思います。実は先に借りておいた本があります。同じ「チルビー」シリーズの本でこれをちょっと見てみましょう。見ていただくと、ここからスタートになります。見る、読み聞かせとありますが字幕が出るか出ないかの違いです。読み聞かせを押してみましょう。(図書の動画が再生される)これは音を消してお母さん、お父さんが読んで聞かせられるということになっています。いったん「見る」を押してみましょう。(また初

めから動画再生) これは字幕が出ない。お子さんに見せて読むという形です。もう1つ借りているのがあります。レシピ本です。「悪魔のおつまみレシピ」。今晚おかずを何にしようかというときに良いと思います。これはくるくると回していくといろいろとレシピが出てくるようになっていきます。たとえば「オイスターソースの薫かり豚の短冊いため」とあって、色々書いてある。ただ小さいですね。画面のところをスワイプすると色々出てくるので、虫眼鏡でこの部分を拡大することができます。電子図書でレシピを見ると、動画と違って止めて見られる、手が汚れるので動画のようにいったん止めるなどの操作をしなくてよいので非常に人気があります。元に戻すときにはダブルクリックします。それではトップに戻ります。色々特集を組んでいます。「スッキリ! ~片づけ・整理術~」「おいしい おいしい本」(レシピはここからとりました。)、**「ティーンズコーナー」**、色々な言語でお話してくれるようなもの、**「キッズコーナー 楽しく学ぼう」**、**「大人のためのオーディオブック」**たとえば注文の多い料理店などを先ほどの**「チルビー」**と同じように読んでくれます。こういうティーンズコーナーなどに**「試し読み」**という機能があるのですね。選ぶのに試し読みしてみましようというときも声で読んでくれます。声も今は女性ですけど男性にも変えることもできます。速度を早くしたり遅くしたりもできます。

予約画面で実際に予約してみました。予約状況を見るところはマイページです。マイページをクリックすると今2つ借りている、もう1つ予約している、**「チルビー」**はあと100人まち、予約本は後3人で来る、この本を見て何か作ろうかとか、そのような形で進んでいくようになると思います。なにしろ特集だけで結構あります。実は本はいっぱいありまして、それをどうやって探して、見るかというところですが、図書館の所蔵と電子図書館の所蔵とは数が違っていて、電子図書館では中々思ったものが(検索すると)ヒットして出てきにくいのです。検索語を入れて探すよりも検索語を何も入れずに、検索ボタンを押してみる、サムネイルにして100件にしておくとも数が出てきます。今は4,714タイトルのうちの100件が出ていることになります。図書館に来て書架を見ているという感じになろうかと思っています。NDC分類ごとになっていますので、見たい分類を探して、たとえば自然科学が見たいということだと404件出てきます。404件の中の100件が出ている。今日はこれを読んでみようかなと思って、今すぐ借りられる本、予約しないと借りられない本、色々ありますのでこういうものをみながら電子図書館の画面は進んでいきます。すぐ借りられるものだけを検索することもできます。検索の横の詳細検索を開いて貸出可能にチェックをつけて検索します。実際利用はどのような状況かと申しますと、4,714タイトル所蔵がありまして、5月にログインをされた方、ログインというのはIDを入れて読むための準備の行為をすることで**「読もうという意思があること」**を意味しておりますが、ログイン状況の資料の中で特筆が、朝の8時から9時の間、大体通勤時間帯と思います。それから12時から1時、お昼ごろかと思っています。また16時から17時も少し多くなっています。これは夕食の準備だったり、お子さんが学校から帰ってくるから絵本をみようかなという感じだと思います。20時から23時までには一番多く利用されています。1日の仕事終わりでゆっくりされるような時間帯、こういうところで御利用されているのかなということが見えます。これは、皆さんがテレビ等を御覧いただいたりお家でスマホを見たりパソコン見たりする時間と大体合

致しているというように感じます。現在の生活に溶け込んでいるのではないか思えます。貸し出しはレシピ本が一番読まれています。次に、児童向けの日本の歴史が人気がありまして、2番目になっています。また画面には出していませんが、オーディオブックが次に来ています。それも出て来ているということになると、やはり現在の生活様式に合っているものと考えられます。電子図書は紙の図書と同じで1タイトルにつき1人しか見られない仕組みになっていますので予約ができてしまいます。ただ皆さんで見られるようにということで、7月1日から「読み放題パック」というものを導入します。「読み放題パック」というのは、借りるとか予約するという考えではなくて、1つのタイトルについて、複数の利用者が同時に閲覧できるような形になっています。試行導入するときに学校のGIGA端末で使えるようにということで、今回モデル校として東大島小学校の200人、それから南河原中学校の300人の児童生徒の方々がモデル校としてご利用していただくことになっています。その方々は全員、川崎市立図書館の利用者カードを作ることになります。電子図書の報告については以上になります。

部会長 ありがとうございます。ただいま「かわさき電子図書館」の利用状況について報告していただきましたが、御質問等あるでしょうか。

渡邊委員 ログイン回数というのは誰が何回利用したかということなのでしょうか。たとえば100回ログインがあって、何人の人が利用しているかわかるのでしょうか。

小島館長 外部のシステム統計になりますが、現在何人登録されていて、アクセス数の多い方を確認することはできます。

渡邊委員 ログイン回数は多いけれど利用者がそれだけ多いのかということが知りたいです。

小島館長 それは登録者数というになりますね。

渡邊委員 登録者がその時間に何人利用しているかはわかるのでしょうか。

小島館長 何時何分に何人が利用していたかという統計があるかは確認してみます。

渡邊委員 そうなのですか。

小島館長 アクセス数は見ただけということなので、いわゆる来館者と同じ定義になると思われま。同じ方が何回来館されたかというのは、市立図書館の場合ですとブックディテクションで入館者数を数えていますから、ある人が出たり入ったりすると2回のカウントになります。そこまで細かいものを出すということより、先ほど説明がありましたように生活様式に合わせてその時間帯に見ていらっしゃる、通勤される最中に1回降りて次に乗り換える間は消しているけれどまた次の電車に乗るときにつける、そうすると同じ方が数回アクセスしたことになりますが、いつでもどこでも御自身が必要に応じてアクセスできる便利さというのが電子書籍の利点だと思います。今後分析の中で必要になってきた場合は確認をしてみたいと思いますけれども、今は始まってまだ2か月の中で、アクセス数や時間帯、登録者数の統計は取れますが、個人ごとの利用統計を出すのは別の問題かと思。統計上調べられるものが多くありますので、個人情報に関わらない部分で知りたいということであれば確認することは可能かと思。います。

渡邊委員 ありがとうございます。1タイトル1人しか読めないということは、100人待つということは、100人が読み終わるまで回ってこないということですよ。タイトルを2つにする等

増やすことも将来的に考えていますか。

小島館長 それは考えていまして、先ほどの『どうぞのいす』は3コンテンツ持っています。人気が出そうなコンテンツについては複数持つようにしています。ただ高額のものも多いので、予約が多いものを全て複数にすることには限界があります。電子図書館は貸出予約ともに3点までなので早く返さないで次の本を読めない等、紙の本より資料の動きが早く回転しているのと思います。また2週間が過ぎると自動的に返却されますから、効率的に次の方に提供できるという考え方です。

渡部委員 ありがとうございます。あと電子図書選定の基準だとか、どうしてもこれは音声や動画にしない方がよいというものがありますか。

小島館長 現時点で明確な選定基準というものはなくて、図書館資料の選定基準を基本にしています。今回、電子書籍を入れるにあたりましては、今見ていただきましたように、紙の本にはない特徴がたくさんありますのでそういう電子書籍を入れました。基本的にこれからアンケート等を実施する予定ですので、御意見等をうかがいながらこれから選定基準も整理をしていく必要があると考えています。今おっしゃったようにこれは紙じゃないとだめだと、いう判断をどこでやるのかという問題になります。紙でないとだめだとおっしゃっている作家さんであれば電子書籍にはそもそもなりません。著作権等を踏まえて電子書籍化されているということは、一定程度需要があり評価はされていると認識しておりますので、これは紙じゃないとだめだから、絶対に電子書籍を図書館では買いませんといった選定の基準は作れないと考えます。

渡部委員 ありがとうございます。

<協議事項>

部会長 では時間の都合もごございますので協議事項(1)に移ります。

今期の研究テーマ『【人づくり】・【つながりづくり】・【地域づくり】と図書館の【見える化】を考える』により、今回は「行きたくなる図書館」について検証を進めましたが、図書館事業の分類における基本的な考え方の整理が必要ということになりました。本日は最初に事務局から【人づくり】・【つながりづくり】・【地域づくり】について確認をしていただきます。よろしくお願いいたします。

庶務係長 それでは、「資料2」の1枚目を御覧ください。最初に、確認ですが、前年度の協議の結果として今期テーマについては、「図書館における人づくり・つながりづくり・地域づくりと、図書館の見える化を考える」となったところでございます。今期、図書館専門部会は本日を入れて残り4回となりますが、前回「行きたくなる図書館」、今回「まちに飛び出す図書館」、また次に「地域のチカラを育む図書館」ということで、「今後の市民館・図書館のあり方」をふまえ、それぞれのテーマに沿って研究・協議を進めていただくということの方向性につきまして、この場で改めて確認、共有をさせて頂きたいと思います。

本日は、前回に続きまして、「まちに飛び出す図書館」について御意見をいただきますが、それぞれの取り組みが、「人づくり」・「つながりづくり」・「地域づくり」にどのように係わっており、どれを主な目的、また視点として実施しているのか、また実施すべきなのか、そ

して、それを市民に伝えていく、広報していくにはどのような課題があるのか、そういった広報面などにつきましても、改めてご意見をいただき、整理・検証いただきたいと考えます。

前回、第4回では「行きたくなる図書館」について分類、検証を行いました。先ほど申し上げました、「人づくり」・「つながりづくり」・「地域づくり」についてですが、この場で改めて、その意味すると考えられるものを、まず全体で共有しまして、今後の検証に活かしていただきたいと思っております。そのために、改めて「あり方」の資料にお目通し頂き、委員の皆様のご共通理解を頂いた上で、協議を進めてまいりたいと考えております。持参いただいているかと思っておりますが、「あり方」の冊子8ページを御覧いただきたいと思っております。こちらの方に、あり方の方向性として「人生100年時代の生涯学習社会の実現」が掲げられております。その上で、「人づくり」・「つながりづくり」・「地域づくり」について、それぞれ触れられているところでございます。これをまとめたものが資料2の1枚目でございます。

まずは「人づくり」です。箇条書きで3点ほど、8ページに載っているものをまとめて載せております。人づくりについては、「個」の学びからスタートし、経験等を積み重ねる中で、社会で働いたり地域活動を行っていく、それが結果として、個人のやりがい、生きがい等につながっていく、これは最終的には個人にその成果が帰結するという事です。またこれに対して公共図書館としてどのようなアプローチがあるか、できるのかということなのですが、やはり個人に対して成果が出ているものとしてお考えいただきたいと存じます。

次に「つながりづくり」についてですが、個という単位ではなく、人に興味を持ち知り合う中で互いに認め合い、相互作用、また触れ合い、つながりといった中で新しい価値観が生まれ、色々な化学反応等がおこってくる。そしてまたつながりが広がり、そういう場ができていく。その結果、成果は、集団であったり複数の参加者に帰結する、これがつながりづくりの意味なのではないかと考えております。

最後に「地域づくり」ですが、これは今までの2つより単位が大きくなっております。単位としては「まち」ですね。御自身の住んでいる「まち」に誇りを持ち、愛着を抱くことで、まちにどんどん関わっていく、そしてまちをどんどん良くしていきたい、そういった思いから、地域活動へ積極的に参加するといった熱意をもって活動していく、そういったことから持続可能な地域活動へもつなげていく、つながっていく、その結果の成果は「まち」に帰結する、それが地域づくりを意味しているのではないかと、ということでございます。

また、もう一つの視点としてあり方の冊子29ページをご覧ください。ここでは取組の方向性が示されています。改めてこれを見ていきますと

人づくりは、取り組みの方向性「ア」に主に該当しているのではないかと

つながりづくりは、取り組みの方向性「イ」に主に該当しているのではないかと

地域づくりは、取り組みの方向性「ウ」に主に該当しているのではないかと

という整理もできるかと思われまます。前回の専門部会におきまして、「行きたくなる図書館」においては、「ア 利用の促進」「イ 支援や交流の場」「ウ 広報」という、それぞれ取組の方向性が示されており、その取組それぞれが、「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」に結びついている、関連しているのではないかと、というご意見もいただいたところです。

このご意見をふまえますと「ア 利用の促進」というのは、図書館は個人利用ですので、

まず個人として図書館に来て利用していただき、その結果得たものというのは個人の利益に帰結するのではないかと解釈できます。次に、本を通じてつながる、つまり「イ 支援や交流の場」という文字通り、本を通じてつながりづくりの場ができる、またそれが機能していくこと、と考えることができるかと思えます。最後に「ウ 広報」については、地域の魅力ある施設である図書館をより知ってもらい、より多くの方に来館していただくとともに地域の魅力を発信することにより、まちの魅力を深めていく、「地域づくり」が主眼であると位置づけられるのではと考えます。またア、イ、ウが、それぞれ、個人、複数、そしてまち・地域という単位で広がっていきつながっていくと整理させていただき、この場でお示しさせていただいたところです。

また、これはあくまで、公共図書館である市立図書館がどういった事業展開を図っていくのかという前提もあると考えておりました、いわゆる「あり方」に沿って基本的な考え方を整理するための案として示しております。加えて分類は必ず「これは〇〇づくりである」と決めることができない相互に関連している事業もあると思われれます。ただし、より効果的な事業展開を図っていく上では、どの「〇〇づくり」に主眼が置かれているのかということ、委員の皆様のご共通理解として考えていくことも、大切なことだと認識しております。ただ一方で、図書館専門部会として、こういった考え方もあるのではないかと御意見も前回いただいております。

以上をふまえ、「人づくり」・「つながりづくり」・「地域づくり」の考え方として、一定の整理をさせていただきまして、今後の協議を進めていただければと思います。各委員のお考え等を伺えればと思います。事務局からは以上でございます。

部会長

ただいま事務局から、「人づくり」・「つながりづくり」・「地域づくり」の整理について資料に基づいた説明がありましたが、今後の協議を進める上で、各委員のお考えや確認等を行いたいと思います。「人づくり」・「つながりづくり」・「地域づくり」について、資料の考え方でよろしいでしょうか。

(委員了承)

部会長

それではただいま一定の考え方が確認できましたので、本日の研究協議について、さらに事務局から説明をお願いします。

小島館長

前回協議につきましては、分類等の考え方について、事前に整理がされていなかったために色々と御意見をいただきました。あり方の冊子を読み解きますと概ねこのような考え方で整理されていると認識いたしました。以上をふまえ、本日御協議いただきたい点につきまして御説明をさせていただきます。資料2の3ページ目をお開きください。

「行きたくなる図書館」、一人ひとりの市民が使いやすいしくみづくりの振り返りということになります。前回2月28日の専門部会でいただいた意見をそれぞれ反映させて、「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」のどれに主眼を置いたものであるかを、○や◎を事務局で記入したものでございます。先ほどの説明にもありましたように、一つの分類にはとらえきれない事業等も多くあると思えます。今日は「まちに飛び出す図書館」をご協議いただくこととなりますが、どちらとは決定せずに一応の考えをお示しさせていただきます

た。

また御覧いただいてこちらの方の要素が大きいのではといった御意見をいただければと思いますが、概ね前回伺った意見を反映したものが資料2の3ページと4ページになります。また2ページが本日御協議いただきます、多様な利用ニーズに対応した読書支援〈まちに飛び出す図書館〉についてということになります。こちらもご説明をさせていただきました3つの視点に沿って、先に事務局で、「○」を入れさせていただいたものでございます。あくまで参考にしていただくということで入れさせていただいたものでございます。本日の協議では、一部例示として「あり方」に掲載されている事業だけでなく、それ以外にも他都市ではこういうことをやっている、図書館ではないけれど自分の地域でこういう事業をやっている、また、これからの図書館に取り込んでいったら良いのではというようなことや、同じ内容でもとらえかたを変えれば、「まちに飛び出す図書館」などにも事業展開ができるのではないかとということもあると思います。また前回の会議でも図書館は広報が苦手ではないのかということをお指摘いただきましたので、そういうところも今回の課題としてブラッシュアップさせていただければと思っております。こうしなければならないという結果ではなくて、各委員の色々な御意見をうかがえればと思っております。参考といたしまして、資料3をご覧ください。これは、令和4年度に各館で行っているさまざまな事業について、作成中の活動報告書から事業を抜粋したものでございます。その中に今回の「行きたくなる図書館」や「まちに飛び出す図書館」に関連した事業もありますので、注釈をつけさせていただいております。これらについて以前にも各館から事業の報告させていただいておりますけれど、今回は「まちに飛び出す図書館」がテーマになりますので、それを中心に資料3もご覧いただきながら、興味をお持ちになったものがございましたら、お尋ねいただき、今後の「まちに飛び出す図書館」がこのように展開をしていけば、より「あり方」の目的に近づく事業が実施できるのではないかとことを各委員からご発言いただければと思っております。

部会長

ありがとうございました。統一テーマを踏まえて、今日の取り組み内容の説明をしていただきました。資料2、資料3を御覧いただきながら、まちに飛び出す図書館に該当する事業について、視点とか主眼を検討し、課題等も含めて確認の方をしてまいりたいと思います。今後の研究の方向性などについても御意見などがあればお願いします。

渡部委員

御丁寧な提案ありがとうございました。まちに飛び出すなどは図書館のスローガンのことだと思うのですが、要するにこれは人と人との交流を意図していく、さっきの電子図書館のようなもの、自動車文庫もそうですが、図書を通してつながるだけでなく人と人とのつながりをもつことによって地域課題に応える図書館にしていくということだと思います。現実的には私が居住している側の向ヶ丘出張所に本が置かれたのですが、使われている形跡がないのです。宮前市民館の菅生分館にも本がありますが閑散としている。宮前図書館から本が入りました、いついつまでですと書いてある。そこに何かプラスアルファが必要なのですね、そこがポイントだと思います。分館のイベントに年1、2回は私も協力できるのだけれど、年間通して人をつける必要がある。ボランティアでもいいのだけれど、本とともにアドバイザーをつける。人がついているのに、ぼーっとしている訳にはいかないから、何かイベ

ントを考える。読み聞かせの会とか、地域の子どもが集まってくるとか。向ヶ丘出張所もカフェとか盛んなので、呼びかければけっこう集まるのですよね。拠点をつくるのが大事だと思います。ただ本をおいて返却ボックスを置いて作りましたというのではなく、拠点をつくる活動を今後考えていかなければならないと思います。

部会長 ありがとうございます。

小島館長 渡部委員、貴重な御意見をありがとうございます。舟田館長、宮前図書館から関係施設2か所に本を送っていると思いますが、ボランティアや広報も含めて実情はどうなっているのか、また宮前図書館で当該施設に送っていることが館内で周知されているのか、わかる範囲で説明してください。

舟田館長 向ヶ丘出張所については向ヶ丘小学校の図書ボランティアの人達が、出張所に係りたいと私の方に相談に来たので、私のところでは寄贈本を提供するという話をしまして、その後、我々ではなくて、つなぐことはつなぐけれど出張所の方の職員とすり合わせをして本棚を育てていく。イベントを実施したり、何かのイベントがあるとき自分たちが係わる。そういうことをなさったらどうですかと助言させていただいたことがあります。その後ボランティアが来て非常にイベントが好評だったという話をうかがっています。タウンニュースとか市の広報等にも宮前図書館から寄贈を受けたというようなことで一応周知的なことはされているのかなと思います。大々的に宮前図書館がやっていますというのもちよっと疚しいかと思いましたが、館内ではポスターみたいなものは作ってはおられませんけれど、何らかのかたちで周知はできるのかなと思っております。また菅生分館については3か月に1回、本の入れ替えがあるので職員が来て本を変えていきますので、今のお話を伺いまして検討しなければならないのかなと思っております。

小島館長 渡部委員から御指摘いただいた「まちに飛び出す図書館」について、館にいただけではなく、まちに出ていく一つの方策として、現在、宮前図書館ではこのような活動をしております。今回いただいたご意見をまとめていく中で、地域との関係の大切さや、今は本だけですけれども、舟田館長から報告がありましたように地域のボランティアをその施設へ派遣する方法や、つながりづくりということを踏まえて連携をしていく必要もあるのではと思います。今後この「あり方」を進めていくなかで、展開ができる一つの御意見だと思えます。また私たちも是非この事例を活用させていただきながら、宮前だけではなくて他地域でも同様の活用ができるのではないかと思いますし、地域で色々な活動をしている状況も踏まえてお話しいただけると、私どもとしましても大変参考になりますのでよろしく願いいたします。

渡部委員 ありがとうございます。舟田さんにはお世話になっておりまして、そういう意味では今後拠点をつくっていく足場があるので、宮前の場合アリーノもあるし、拠点を作っていく可能性がすごくあって、予算的なことがあるのでしようけど人を配置する方向を考えていく必要があるかなと思います。もう一つ話題提供したかったのは、実は区役所にまちづくり協議会というのがあるのですね。地域振興課、それは教育委員会、それから図書館と別のルートな訳です。私はまちづくり協議会にお願いして活動資金をいただくのですね。今年13万いただくのですが、ラブみやまえとか楽市とかいうかたちで交流する訳です。交流する

といろんな文化的活動をしてらっしゃる方がいっぱいいて、様々な市民が様々な場所で、まさに多様性ですけど、子どもたちのために、あるいは地域の住民のために色々活動を行っているのですよね。ところがそれはサークルであるためにクローズ、閉ざされていて会員じゃなければできないみたいな感じで中々オープンになっていかない問題があるのですが、そういう活動があって、図書館はそういう活動とつながらなければいけない。私の文庫ではオープンですけど、毎年お金をいただくのに説明する訳です。どこかの大学の教授が委員で審査をする訳です。そのとき私は文庫活動だとか読書の必要性、図書館の必要性、文庫の今までの活動、今後の活動を全部説明する訳です。一応よく頑張ってるから出して出すということですが、一言意見が付くのです。図書館と連携すべきだと。私たちは関係ないみたいな感じのコメントがつく訳ですよ。図書館に対する認識がすごく弱いのですね、地域振興課自体。同じ行政でありながら教育委員会それから地域振興課の連携、横のつながりを強くしてもらいたいし、私みたいなのは文庫をやっている本を買ったりするお金がないので、寄贈いただく訳ですけど、他にももらえばやりたい人いっぱいいる訳ですよ。そういう意味でいろんな図書館じゃないけど文化的活動をやっていききたいという人がいっぱいいて、歴史のことだとか、音楽を広めるとか、絵を広めるとか色んな活動をしている訳です。そういう人たちのつながりを作るという意味でもそういった横のつながりをどうするかというのがこの問題の核心だろうと思っています。以上です。

部会長

他の方がいいでしょうか。

今野委員

資料3の現在の活動を拝見すると、まさに飛び出す図書館の中ではお子さん向けの読み聞かせとかお話会が多くて良いと思うのですが、今、頻繁に起きている地震などの災害に備えるとか、防災知識を深めるためにもこういう場を利用出来ると思いました。それから、人生100年時代ということで、体とか心のケアという活動、認知症を知る、そういう活動もすごく良いと思えます。のですが、こういったアプローチは、世代を問わず、すごく重要になってくると思いました。

一点、質問させていただきたいことがあります。地域の課題を解決するというのが図書館の役割の一つだと認識しています。まちおこしの視点で考えると、その地域に含まれる産業界の課題の解決に役立つみたいな活動も必要かと思っていますのですけれども、産業界からのニーズはあるのでしょうか。

小島館長

今御指摘いただいた点、防災などには強く意識をもって特集などもしております。認知症などの課題につきましても各館におきまして取り組みを進めております。今御質問いただきました産業界との関わりですが、中原図書館につきましてはビジネス支援の図書館という位置づけがあります。その関係もあり、幸区のミューザに入っています NEDO（国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構）からお話をいただきまして、NEDO の冊子を関係図書館に置くようになりました。また、実施はできておりませんが、夏休みや子ども向けのイベントでも NEDO が協力いただけると伺っております。新型コロナウイルス感染症の関係もありまして、子どもを集めたりするのが難しい状況にありましたが、今後連携などを進めていきたいと考えております。図書館として色々、課題はありますが、「まちに飛び出す図書館の」の課題としては、現在の文化的なものだけではなくて、まちづくりとか産

業界等ともどのように連携していくかということは重要な部分とも考えます。今回協議の中でこのようなご意見があったということをご記録させていただいて報告書等をまとめる時には一つの課題になるかと思っています。

今野委員 どの県の図書館だったか忘れたのですが、ビジネス支援ということに注目して、ビジネスライブラリアンの資格を取って対応しているという新聞記事を読んだものですから。

小島館長 川崎市内の場合、神奈川県立川崎図書館がその視点を強く打ち出している専門的な図書館になります。今までの関係がありまして市立図書館としてこの部分への取り組みが少ないというのが現実だと思います。ただ現在川崎図書館が高津区に移転しまして、今でも県立川崎図書館とは連携しておりますので、より市立図書館にはない部分を補完していただきたいですし、県立図書館でやられている産業や知財関係のイベント等についても市立図書館にチラシ等が送られてまいりますので、我々では解決しきれないビジネス支援については県立にお願いするなど、役割分担をしながら、市立図書館として関係する機関等を紹介していくことも重要な役割だと思っています。

部会長 今ビジネス支援の話が出ましたが、小島館長からお話がありましたように県立川崎図書館が非常に力を入れていますのでそこと連携して、まさに飛び出す図書館の表でいうところのつながりづくり、人とのつながりを仲介するというようなこともより強くサービスとして打ち出すことができるかと思っています。

菅原委員 文化協会として、夏休みに親子教室というのを実施していて、その中に親子で図書館の話を聞いたり見たりとか、そういうような場面が作れないかということを設定して、もうすぐ夏休み始まりますから、徹底して各学校の子どもたちにチラシを配ったりしているところです。自然の鶴見川に実際に入ってやってみようとか、そういう事業は大学と連携して大学の生徒の「かわ道楽」というクラブの人たちと、親子で、お父さんもお母さんも一緒になって川に入って、色々なものを本当に自分たちで探して、ああこれはなんていう魚だって、こんなにいるのだからということを行ってあります、また俳句を作ってみようとかそれを自分たちで色紙に書いてみるとか、色んなこと行っています。その中の一つとして、すこし親子で夏休みに1回でも図書館を訪ねたり、そこでお話をしてくださる図書館関係の人がいたりしたら、また図書館を使っていない小学生対象に呼びかけていって、まさに飛び出す図書館というか、来てもらうということになるのかと思います。何日かでチラシを作らなければならないかということでそれはやる方向で考えています。小さなことを一つ一つ積んでいかないと、中々図書館に来てと言っても、こんなに良いことがあってもなかなか結びつかない。一度でも経験すると、親も子どもが「いかない？」とか言うと、「いいよ」ということになると思います。

小島館長 図書館としても文化協会全体との連携については検討していかなければならないと思います。今お話がありましたように図書館を知っていただくようなイベントの実施等が考えられます。まずは麻生区で実施する可能性があると思いますので、ぜひ麻生図書館に御相談ください。「まさに飛び出す図書館」の位置づけになるかどうかということもありますけれど、やはり図書館を知っていただくために地域の団体とつながっていくということは、重要な課題と思っています。

渡部委員 その関連で、今菅原委員がおっしゃったことで、私達は7月25日に、宮前市民館菅生分館で夏休みのこども講座で絵本や紙芝居をどう伝えるかというテーマで、子どもたちが自分で絵本を読む、あるいは紙芝居を読むのにどうするのかという講座をやりたいということで、私の方で本を選んであげて、紙芝居も選んで、紙芝居を読むときただ読むのではなくて紙芝居って演ずるんだとか絵本を読むっていうのはどういうことなのか、ただ国語の教科書を読むのではなく世界観と言いますか、そういうものを味わわせるような朗読活動をやりたいっていう子ども向けの講座があったものですから、そちらの方で協力をしています。そういう形で実施していると思います。寂しいことをいうと図書館ではなく市民館もタイアップするといいなと思いました。

小島館長 この「あり方」の中にも、関係施設との連携という視点が示されています。現在は市民館との連携で事業を進めているところがございますので、市民館からもそのような情報を図書館に入れていただけると色々な連携等が、今後可能になってくると思います。今までどうしても市民館と図書館は同じ施設にありながら情報が共有できないところがあったかもしれませんが、今後さらに図書館と市民館の連携を踏まえていくことで、「まちに飛び出す図書館」の一つになっていくと思います。

部会長 他にはいかがでしょうか。

副部会長 せっかく庶務係長が作ってくれた資料(資料2)が、本当にこれでいいかどうか検討しなければいけないのではないのでしょうか。資料を見ていたのですが、前回話したことと今回考えて係長が作成してくれたこの資料の分類の考え方、整理の考え方を見て、果たして図書館の諸活動が「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」のどれに該当しているかいうことを、しっかり見極めなければいけないと考えています。それが前回からの課題ではないのでしょうか。今回この資料を見たときに、非常に整理されていて、それぞれの事業に◎がついていて、ひとまず確定としているのですが、それほど違っているとは思わないのですが、結果的に人づくりは個人に帰結すると、資料2の一番目の表に書いてあるのですね。成果として個人に帰結する。つながりづくりは集団に帰結する。地域づくりは地域に帰結するというようにです。結論をそこに持っていくのであれば、ああ成程というようなことで理解できるし、それぞれの事業を見ていけば、例えば該当例の2ページ目を見ると、地域関係団体との連携によってお話し会やフロンターレとの連携という事業があって、これが何づくりになるのかということを考えれば、これは個人に成果が帰結するというように見ていくと、事務局が作ってくれた事業ごとの◎の確定、結果的にそれが見える化できているかどうかということがあって、具体的に見ていけば、見える化されて○がついている。それでいいと思うのです、ほぼこれでうまくいっているのではないかという気がしています。係長がしっかりやって頂いたと思います。そういうように各事業を見ていくと、諸活動、図書館事業の色々な実際の例を見ていくと、やはりその整理の考え方でいいという気がしています。ただあまりにも資料の記載内容が多様になっているので、ここと合わせて今回出てきた資料3を見ると、ここに考え方や分類のあり方が帰結しているのではないかと、そのように私は思います。

小島館長 今回全体の流れもありましたので、丸入れを事務局で行いましたが、本日御意見をいただきました多様な視点があると思いますので、必ずしも丸を入れることを目的にする必要は

ないのかもしれないと考えております。一応整理の方法として表を完成することで整理がしやすいとは思いますが、資料2の始めにありますように、人づくり、つながりづくり、地域づくりという考え方を一定程度整理できるのであれば、必ずしもこの表作りが目的ではなくて、「あり方」をふまえて、協議、検証を進めていくにあたって、今書かれているもの以外にこういう事業を実施した方がいいのではないかと、「あり方」の中では人づくりの方に重点がおかれているが実際にはつながりづくりの方が重要だというように異なった視点でも活動に力を入れる。このようなことも専門部会からのご指摘をいただきながら図書館も考えていく必要があると思います。この人づくり、つながりづくり、地域づくりのことに、委員の皆様で一定の御理解をいただければ、今後事務局の方で概ねの考え方をお示しし、それに付随して皆様から、今日いただいたような様々な体験や状況を教えていただけると、我々としても参考になると考えております。是非今後も「あり方」をどのように展開していくのが良いのか、「あり方」の記載のとおりではなかったとしても、もっと良いやり方があるのではないかとというようなこともご教示いただければありがたいと考えております。

渡邊委員

以前は図書館職員が学校の方に出向いて読み聞かせをしてくださったりとかいろんな相談事があった場合にアドバイスをいただいたりということがあったと思うのですが、お忙しくて、また学校の方でも読み聞かせのボランティアさんが育ったりして職員が読み聞かせに出張することはしなくても大丈夫な環境もあると思うのですが、ボランティアではできない図書館職員としての資格的なところで、学校とのつながりと限られたものになると思いますが、ブックトークを行ったり、職業体験のときに図書館に体験に来るお子さんはある程度の興味をもって、本が好きだとか将来そちらの方に進みたいという希望を持った人が来るのですけれども、そうではない人に対しても、図書館っていうのはこういう仕事をしているとか、こういう利用の仕方ができる機会を、考えようによっては学校の方で作って頂けると思います。人づくりにも関連するかもしれないけれど、図書館としての本を置く場所的なことからのつながりではなくて、その人が、職員がまちに出ていくことによってつながりをつくるということができないのかなと、以前のこともあって思いました。職員の数が少ない中、中々難しいところではあると思いますが。

小島館長

そのとおりだと思います。まちに飛び出すということは、本が出ていくと同時に職員が出ていくということだと思います。渡邊委員がおっしゃったように、各学校との連携協力として、以前はブックトークなどの事業を図書館職員が行っていました。今でもゼロではないと思いますが、新型コロナウイルス感染症の関係等ありまして、なかなか部外の人が学校施設に入れない状況が続いていました。また今年度中に学校司書が全小学校に配置されることとなります。これにより今までとは異なる市立図書館と学校図書館の関わり合いもあるのではと思います。学校司書の位置づけがしっかり展開し始めることで市立図書館との関係性の整理が必要になってくると思います。毎年学社連携会議を実施し、各区の学校担当者の方々にお集まりいただいて市立図書館との連携会議を行っております。そういう中で御意見をうかがいながら、できること、今まで行ってなかったけれど、こういうことをやってほしいということがあれば、検討していくことができると思います。「まちに飛び出す図書館」の一つの課題として、これらの学校からの要望についてどのように対応できるのかという

ことは、重要な課題と考えています。

渡邊委員
部会長
渡部委員

ありがとうございました。

他にはいかがでしょうか。

今直接関係ある訳ではないのですが、やはり人の問題というのは大きいです。図書館の本を運んで置いたから、それで外に出たんだ、ではなくて人と人とが交流しあう、あるいは学校司書や図書館司書や職員が市民と直接対話をする、そして市民が知りたいことを直接話ができる。要するにその間にいろんな距離的な問題等で、つながりが希薄になればなるほど図書館が身近とはいえなくなる、遠ざかっちゃうと言いますが。そういう意味でどうやって人とつながりをつけていっていかってという問題が大きくて、たとえばここでキーワードがあるのはボランティアだとか地域の読書推進サポーターのような、従って職員を増やすというのではなくて、そういった地域で読書推進をしてくれる人をどうやって広げていっていかの課題だとか、そういう問題を具体的にやっていった方が、住民が行政にないものねだりをするのではなくて、自分たちができることをやっていこうみたいなことも両方しないとなかなか実現しない話だと思うことはあります。だから、そういう問題は当然関係あることだと思います。

小島館長

ぜひ「あり方」を実現するためにもお話いただいたようなことは重要な課題だと思いますので、この会議の中で、委員の皆さんからご意見等をいただけるのであれば、研究報告書でも、より図書館が良くなって、「あり方」を実現させるためには、地域の力をどれだけ借りていくのかということを確認に打ち出した方がよいのではないかと。このような事例は、特にこれからの課題になっていくと思います。

今野委員

まさに飛び出すところですが、色々な行事を企画されて、防災のことで心ケアのことで、参加者が増えないと意味がないと思うのですが、そういう認知、広報活動は各図書館で発信されているのでしょうか。

小島館長

認知症の話題が出ましたので宮前図書館から説明をお願いします。

舟田館長

広報につきましては、チラシ等を、区役所地域ケア推進課、健康福祉局のポータルサイトに載せて頂いたり、図書館ホームページだとか、そういったところで広報をかけているところがございます。タイミングが悪くて市政だよりに掲載されないケースもありますので、そういった意味ではイベントについてはそのような形で広報させて頂いています。認知症コーナーは特にページ等はつくっておらず、ひっそりと実施しているといった状況です。

今野委員

あまり規模を拡大したくないということでしょうか。

舟田館長

物理的空間に限りがありますので冊数も 200 何冊のコーナーの中にありますので、そこをどういう風に整理していくのかというのが課題ですが、できるだけ知っていただくというのはあるのですが、縮小ではなく、むしろ心のケアだとかそういったところも総合的に勘案して色々な取り組みを宮前では実施していこうと考えています。

今野委員

ありがとうございました。行事の内容次第とは思いますが、図書館がこういう活動をしているならば自分も参加してみようかなとか、ひいてはボランティアもやってみようかなとか、アンブレラ効果も期待できると思うので、情報発信はやはり大切だと思います。たとえば電子図書館に関しては、新聞発表されたことで、ものすごく認知度アップに繋がったの

ではないかと思えます。私自身も新聞で知りました。それぞれの世代に届くような発信の仕方・媒体があると思うのですが、新聞は、電子版にしても紙版にしても、大人は読むけど若者は読まないといった傾向がありますよね。LINE は幅広い世代に利用されていますが、図書館アカウントはあるのでしょうか。

小島館長

電子図書館もそうなのですが、市のツイッターは使っております。LINE は市では行っていません。市全体の広報もありますので、これからも SNS の活用をさせていただきたいと考えています。ただ図書館独自のツイッターを持っていませんので今後の課題と考えます。例えば横浜市は、図書館がツイッターを持っています。今後川崎市も各施設でツイッターが持てるのか、整理しなければならない課題はあると思いますが、市のツイッターで今回、電子書籍について広報しました。ツイッターを出す場合全館を対象としたものだけでなく各館のものも出せるのかなど、いろいろ取扱いのルールがあると思えますので、そういう意味でも SNS を活用した広報は今後の課題と思っています。まちに飛び出すだけでなく、すべてのことで周知広報をどのようにしていくのかということが課題だと思いますので、LINE の話も出ましたけれど、こういうやり方で若い世代へも周知できるのではないかと、こういうことをどこかでやっていたといったお気づきの点がありましたら教えていただけるとありがたいと思っております。

今野委員

若い世代も含めた網羅的なものというのは SNS だと思います。今でいうと LINE が主体かなと思います。私もコロナ禍で、川崎市が発信していた LINE に友達登録をしたところ、感染者が今日は何人でしたとかワクチンの接種開始は何日からですといった情報が毎日のように来て、役に立ちました。LINE は幅広い世代が利用していますし、積極的な発信という点に於いて、LINE が媒体としては適切ではないかと考えました。

平木委員

広報面の課題ということで資料に載っていましたが、良い企画があってもどうして知られないのか、どうしたら知られるのだろうかずっと考えていました。その都度、駅とか人が多く通るところに、ポスターとか、川崎駅の電光掲示板とかすぐ目につくので、そういうところで宣伝ができないかというお話をしました。でも、今一番大人も子どもも、どこに行けば何をやっているのだろう、ここはどういうところだろうって調べる時は必ずホームページに行きますよね。今川崎市立図書館のホームページを開いてみたらなんか本のこととか利用のことはわかるのだけれども、イベントのことというのは全然たどりつけなくて、お知らせという形があって、そこから入れば、アクセスして、それからどんどん潜っていけますよね。川崎図書館ではこんなことをやっている、中原図書館では…となるので、ホームページの目立つところにお知らせ・イベント、そういったものを書いて知らせていけば今日こんなことをやっているよ、というように段々広がっていくと思ったので、まずホームページに書いていただいて、お知らせ、記録というようなかたちで載せていただいたら広がるのではと思いました。

小島館長

10 月にはシステム更新と合わせてホームページも見直しをしております。皆さんが利用しやすいホームページを今検討しておりますので、今の御意見にもありましたように、各館の情報が多く掲載されるとかえって見にくいなど、当然全館で実施するものについては、その広報の掲載方法はあると思えますが、自分が使っている館にアクセスをして、それぞれの館

が実施しているイベント等を確認したいなど、各自がそれぞれの使い方をされると思います。お話しのように今のやり方だとアクセスしにくい可能性もありますので、より見やすい形になるように検討してまいります。次回の専門部会の際にホームページ御紹介させていただけるとしますので、御覧いただきたいと考えます。ぜひ10月1日からは新しいホームページが公開されますので、機会がありましたらご覧いただければと思います。

部会長

ありがとうございました。

菅原委員

麻生区が長寿日本一になったのです。5年間長寿、ずっと長寿日本一ですね。この図書館との関係で言ったら、図書館を利用する人の年齢っていうのは区によってどんな風に違っているのか。たぶん私は麻生区の方は、結構図書館を高齢の人が利用しているのではないかと思います。そんな利用者と年齢の関係はどこかで調べられておりますか。もしそうであればそういうこともすごく宣伝になると思います。図書館を利用してこんなに読んでいるんだ、こんなに本を利用しているんだと。まさに日本一と言われるだけに知的なことへの要求っていうか意識が高いつてことが理論づけられるようになるのではないかと考えているのですが、どうでしょうか。

小島館長

今のシステムの統計では、全てを詳細には出せないと思いますが、登録者が何歳ぐらいの方というようなことは出せると思います。おっしゃるように「あり方」を考えていく上で、「あり方」の中にも人生100年ということが示されておりますので、幼児から高齢者まで、どのように図書館を使っていただくかというのを考えていかなければなりません。今の御指摘のように、麻生だけではなくて各館の利用者の特性等を把握して、年齢層の違い等がもし顕著にあるのであれば、やはりこれからのサービスを考える上で「あり方」につながるものと思います。次回にお示しできるかどうかわかりませんが、図書館としてもそういうことに気を付けながらデータ等の整理をしていきたいと思っています。

部会長

そろそろ時間も迫ってまいりましたが、一通り委員の方はご発言いただいたでしょうか。

副部会長

文部科学省が第5次子ども読書推進計画を出しました。その前に有識者会議の論点まとめという文章が出ていまして、そこで、中高生の読書経験の差がすごく大きいという記載があるようです。やはり読書経験が少ない子たちにとっては、高校でも中学でも読書は面白いつてことを伝えるような、アニメーションとか読み聞かせとか、そういうのをやるべきだというのが出ています。そういう意味で子どもたちの活用ということも今後の課題かと思えます。子どもたちをどうやって図書館に位置付けていくのかということです。

部会長

まさに飛び出す図書館という枠組みで検討をいただいたと思うのですが、この後事務局の方で整理いただく必要があると思います。今回は次の方向性「地域の“チカラ”を育む図書館」の方向性の基にお話を進めていければと思います。それに加えて図書館員の専門性とか指定管理についても御意見があれば合わせて協議していきたいと思っています。図書館事業の具体的な整理、分類、検証を引き続き進め、課題の抽出とかあるいは新たな事業展開に向けて、引き続き議論を進めて、その内容をもとにまとめてまいりたいと思います。委員の皆さま、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは次回の日程について事務局からお願いします。

※事務局から各委員の御都合を確認。欠席の方には事務局から連絡する。
次回開催は10月25日（水）午前10時からとなった。

部会長 それでは本日は以上となります。次回もよろしくお願いいたします。